

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	清華大学サマープログラム	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:コンサル)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

中国のトップともいわれる清華大学のサマープログラムです。世界26各国から大学生が集まり、中国の政治・外交・経済・教育・女性活躍・建築・都市について議論したり、フィールドワークをしたりすることで、中国への理解を深めていきます。

参加した動機

将来は中国で働くことになりそうだと感じていますが、幼少期に中国を離れているため、現在の中国がどうなっているのかがよくわかりません。海外のメディアが伝える中国の姿は多少バイアスがかかっているのので、中国に行ってその姿を自分の目で見てみたいと思って参加しました。今回のプログラムで知ったことは、北京という特殊な都市の一面にすぎません。しかし、中国という大国の不思議な面に多く触れることができました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大に応募書類を提出し、通ったら清華大学にも提出します。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国籍のため、特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学のみ加入

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学時期が期末試験期間に少しかぶるということで要注意でした。私の場合は試験日にはかぶらなかったため何もありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特になし
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日本から持っていくとよいものは、蚊取り線香とドライヤー、日焼け止め、サングラスだと思います。非常に湿度が高く、蒸し暑かったので暑さ対策も必要でしょう。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中は各分野の教授が日替わりで講義をします。午後はグループに分かれてテーマごとの活動(レクチャー・フィールドワーク)をします。イベントが充実しています。
②学習・研究面でのアドバイス
欧米人や英語圏に留学中の学生が多いため、レクチャーやディスカッション時に要求される英語力は高いと感じました。留学前に英語を勉強しておくとうよいと思います。留学中は宿題はありませんでしたが、前の日に行った活動について軽くプレゼンする機会などがあつたりするのでメモは頻繁に取っておくといいかもしれません。
③語学面での苦勞・アドバイス等
アメリカ英語以外のなまりが入った英語が非常に聞き取りづらく、慣れが必要だと思いました。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
留学生の寮に泊めてもらいます。私は一人部屋で中にトイレとシャワーがついていました。二日おきに部屋を掃除してくれます。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
上記したとおり、かなり湿度が高く、洗濯物を部屋干しするとまず一日二日では乾きません。北京は地下鉄とバスが発達しているうえ、タクシーも安いので便利です。大学内の食堂でファストフードや中華が食べれますが、大学の外にもレストランが多くあります。お金は人民元をそのまま持っていきました。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くはないと思いますが、スリには気を付けた方がいいでしょう。また、信号がないところが多いので、車には十分に気を付けるべきかと思います。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃は6万円ほどかかりましたが、東大からの奨学金で大体カバーできます。現地では大学外での食事や交通費、お土産代など合わせて2万円を使いました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラム参加費はただで、東大から6万円の奨学金が支給されるのでかなりお得だと思います。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
夜や土日に参加自由のイベントがあります。中国語を勉強したり、切り絵をしたり、太極拳を学んだり、万里の長城に観光に行ったりできます。もちろん、これらに参加せずに自分で観光をしたり、夜はバーに行ったりもできます。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
毎日プログラムスタッフと会うので、体調不良などはすぐに相談できます。寮のスタッフも対応が早いです。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館とスポーツ施設が利用できますが、一部有料です。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
こんなに多くの国から来た学生と一度に交流できる機会はなかなかないと思うので、一つの問題に対してみんなが違う意見を持っていることを知れたのが一番の収穫だと感じました。また、中国の政治や外交、経済、教育の各分野から講義を受けられたことで、中国に対する理解が深まったと思います。また、自分で観光する時にはいかないうような企業や施設を訪れることができたのも良い経験になりました。
②参加後の予定
無事卒業できるように単位をそろえたいと思います。また、就職後は中国語を使うようになるかもしれないので、中国語を勉強したいです。このプログラム中に知り合った友人たちが日本に遊びに来るとのことなので、それも楽しみに待っています。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
ほとんど無料で中国への理解を深められるととてもいい機会です。特に英語に自信があるという人にぜひ参加していただきたいと思います。日本では決して語られない中国事情を知ることできるので、将来世界を舞台に活躍したいという人にもとてもおすすめです。
<b>その他</b>
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月3日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	Experiencing China	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:コンサル)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

中国でトップを争う大学。大学の施設はとても充実していた。

参加した動機

中国トップの大学で学んでみたかったことと、香港に以前留学していたことから、北京と香港を比較してみたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特にこれといった準備はしなかった。指示に従った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

もともと持っていた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

薬局で買える総合薬を持って行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大の指示に従った。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

書類にサインをもらう。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特にこれといった準備はしなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
薬。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前は教授によるレクチャー。午後はテーマごとのグループに分かれてディスカッションやフィールドトリップを行った。レクチャーのトピックは中国に関するもので多岐にわたっており、面白いものが多かった。参加者は4分の3が欧米から来た人たちだったので、かれらから見える中国といったものも理解できて面白かった。
②学習・研究面でのアドバイス
参加者は全員、中国に何らかの興味がある人が集まっているので、休憩時間等に積極的に周囲の参加者とコミュニケーションをとると学びが多いと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
同じグループにきつめのブリティッシュイングリッシュを話す人がいたので、聞き取りづらかった。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
清華大学が提供してくれる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
寮が地下鉄の駅から遠かったので少し不便であったが、それ以外では不便はなかった。空気がやはり汚いので喉がいたくなった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くないが、空気が汚いので、器官が弱い人はあらかじめ薬をもっていくべきだと思う。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費のみ。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
清華大学がプログラム費を負担。東大からは奨学金6万円。東大の奨学金に関しては、プログラム申請と同時に申し込んだ。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

夜は参加者と北京を散策した。

### 派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語の話せるスタッフが常時対応してくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

とても整っている。寮にはファイヤウォールにかからない(LINEやGoogleが使える)Wifiがとんでいた。(大学提供)

### プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

香港で中国経済、政治を学んでいたこともあり、香港から見える中国への批判的、客観的視点と、中国の首都である北京から見える中国への視点を比較することができた。中国に対する理解が深まったように思う。また、参加者は個性豊かな人が多くとてもフレンドリーなので、彼らと交流することによって、自分にはなかった考え方を知ることができた。

②参加後の予定

就職活動

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間ではあるが、毎日とても密度が濃く、学びが大変多いプログラムなので、参加を本当にお勧めする。

### その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

とくになし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。